（３）②様式第３号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ず A３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	主催：国立大学法人弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻 ［教職大学院］ 後援：青森県教育委員会
コラボ研修プログラム	NITS・教職大学院コラボ研修プログラム支援事業
支援事業報告書	【NITS・教職大学院コラボ研修（公開セミナー）】 子どもの学びや育ちを見取る学習評価
	開催日時：令和６年２月１７日　１２時５０～１６時３０分 開催場所：弘前大学（青森県弘前市文京町１番地） 参加人数：３６人（教育関係者　対面１３名・オンライン２３名）

内容：

本研修プログラムは、子どもの「主体的に学習に取り組む態度」の評価や「目標と指導と評価の一体化」を意識し、実際の小・中・高等学校３名の先生方による実践事例発表をもとに、工夫されている点や授業改善への生かし方について協議を行い、指導と評価における教師としての資質・能力を高めることを目的とした研修会である。日程は二部構成とした。まず開会行事で課題意識の共有として、学校教育の中核をなす「授業」の根幹である「評価」を本当の基本から見直し、子ども達の力を引き出すための「評価」について一緒に考える研修会であるという趣旨説明を行った。第１部での実践事例発表の内容を踏まえ、第２部ではパネルディスカッションを行った。前半には教職大学院教員が指定討論者として定義・用語の整理をし、パネラーである実践事例発表者の先生方への質疑応答へと進めていった。後半では各校種の立場から感じたこと、気づきや発見を対面参加者、オンライン参加者それぞれグループ交流で意見交換し、そこで生まれた疑問や意見を Google スライドに打ち込んでいただき、リアルタイムで指定討論者およびパネラーの先生方と共有することで、今後の授業実践の可能性について検討する機会を持つことができた。当日は会場だけでなく ZOOM によるオンライン配信も実施し、ハイブリッド開催によって、地理的制約を越えて参加しやすい環境を整備し、学習評価に関心のある多くの教師が学び合うことができた。

金子先生

接待先生

澤田先生

【第１部：青森県内各校種の先生方の実践発表・情報提供】
・高校：青森県立青森高等学校　教諭　金子勇太先生
高校における「指導と評価の一体化」に向けて、観点別学習状況の評価【P 前提】、評価の実際【D 実践】、今後の“改善”に向けて【C 振り返り】の３点から「歴史総合」の授業実践について
・中学校：八戸市立北稜中学校　教諭　接待裕行先生
「主体的に学習に取り組む態度」の評価について八戸市内の社会科教員対象に行ったアンケート結果から見取れる先生方の悩み・疑問について
社会科の授業における単元を通した「導入・振り返りワークシート」の工夫について
どのような方法で「粘り強い取組」「自らの学習を調整」を見取るのか
・小学校：青森市立浦町小学校　教諭　澤田秀史先生
事例①国語：論理的な意見文
事例②社会：６年「徳川家康と江戸の発展」
事例③総合的な学習の時間：目指そう！住みよい浦町地域ねぶた復活に向けて
主体的・対話的で深い学びに到達するには、ルーブリックについて、「指導と評価の一体化」について
先生方の発表では、それぞれの授業実践の中で生まれた今後の課題についても述べられた。

【第２部：パネルディスカッション】
「子どもと教師の成長を促す評価とは？」という視点を軸に「評価方法や評価の観点、学習評価のあり方、指導と評価の一体化、目標に応じた評価とは？」 についてパネルディスカッションを行った。
指定討論者：弘前大学教職大学院助教　若松大輔
パネラー：金子勇太先生　接待裕行先生　澤田秀史先生

成果： 研修に参加された方々からの感想から

・校種毎の評価観について知ることが出来た様に感じました。実は、評価についてとても苦手意識があって来年度こそ！と思いました。ルーブリックを話し合って作ること、学年団でやってみたいなと思いました。
・ルーブリック評価はじめ、主体性を評価することも、まだまだ手探りで取り組んでいるところなので、範のようなものがあると実践しやすいかなと思いました。生徒の主体性は学習内容をメタ認知できるか、評価する前にメタ認知できる力を育てているかが大事、という言葉、とても勉強になりました。
・コロナが５類になりましたが、zoom で参加できる研修をこれからも続けてほしいです。子育て中で会場に行くことが難しくても、学べる環境があることはとても有難いことだからです。
・評価の難しさ、様々な評価の考え方やポイントについて学ぶことができました。教科間、学年間での評価がぶれないようにすることや、振り返りで主体性を見取るときのポイントなど、新たな学びがありました。また、ルーブリック評価についての理解が深まりました。
・３人の先生の貴重な実践を拝聴し、学習評価の理論と具体的方法について学ばせていただきました。学習評価は教師の専門性に深く関わっていることは確かですが、定型化し過ぎず個々の教師の授業観に基づいてある程度柔軟であっても良いのかもしれないという感想をもちました。

アイディアや工夫したこと：

・対面とオンラインのハイブリッド開催としたことで、冬の県内・外の参加者に情報を発信できた。
・回答のしやすさや効率化を図るために、申込受付やアンケート収集等は web フォームを使用した。
・グループ交流の際に Google スライド上で意見や質問を共有することによって、対面参加者・オンライン参加者双方の意見をリアルタイムで共有することができるよう工夫した。
・青森県で「学習評価」についての研修会を実施できたことが意義深いものであったと考える。
・第一部での事例発表の内容を踏まえ、第二部ではまず指定討論者による質疑応答を通しての語句の整理を行ってからグループ交流の場を持つことによって活発に議論につなげた。

＜写真・図など＞　※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

☝ 指定討論者の若松先生による用語の整理と、パネラーの先生方への質疑応答の様子
研究者である若松先生と現職教員であるパネラーの先生との質疑応答は熱のこもったとても深い内容でした。

👈 休憩時間の様子
発表者の先生方や参加者同士が交流をもつ貴重な時間になりました。

グループ交流の様子 👉
対面・オンラインで積極的に意見が交わされました。